

諏訪神社



旧鎮座地・館山市館山（現上仲公園）
現在は館山神社に合祀されている
建御名方命（たけみなみののみこと）

由緒
別当長福寺（仲町）

祭神・建御名方命は、武神として知られており、また農耕・狩猟の神として広く信仰を集めています。

昔は現在の上仲公園地に上町と仲町の産土神としての諏訪神社が鎮座していました。大正十二（一九一三）年に起きた関東大震災により諏

訪神社が倒壊し、その後は館山神社へ合祀されました。仲町集会所には当時の諏訪神社の神社額が残っています。

また当時の諏訪神社に施されていた安房の名工・武志流三代目武志伊八郎信秘作なる迫力のある龍や、木鼻の纖細な獅子・狛などの彫刻が、諏訪神社の別当寺であるあつた仲町長福寺で堂内に今も大切に保存されています。



諏訪神社にあった三代伊八の彫刻

大正三年、旧館山神社の四社が倒壊したた
町（現在の青柳、上真倉、新井、下
町、仲町、上町、楠見、上須賀地
区）と、旧豊津村（現在の沼、柏
崎、宮城、笠名、大賀地区）が合併

8/12
館山のまつり

祭りの起源

大正三年、旧館山神社の四社が倒壊したた
め、協議により各社の合祀

を決め、昭和七年に館山神社として創建されました。

現在は館山十三地区八社

し館山町になつたのをきっかけ

に、大正七年より毎年十三地区

十一社が八月一日・二日の祭礼

を合同で執り行うようになりました。

その後、大正十二年の関東大震災により、諏訪神社（上社）、厳島神社、八坂

愛称「たてやまんまち」として、城下の人々によって伝え続けられてきた“心のまつり”です。

毎年八月一、二日に行われる
館山地区合同祭礼、通称「たてやま
まんまち」に出祭し、仲町区は区

自慢の祭

長をはじめ祭を主催し、五人の世話人達が主となり祭の準備が進められています。

祭が近くなると、子ども達を中心いての熱心な踊りの稽古が続きます。

祭礼時には「仲町区伝統踊り」として幾つもの踊りが披露されます。踊りのお囃子は「びっとこ」が基本で、昔は揃



関東大震災前の諏訪神社の扁額



伝統の踊りが自慢の仲町の祭り



「ぴっとこ踊り」、女の子は「おかめ総踊り」、男女混ざつての「左官踊り」、餅つき踊り、えびす鯛つりり、興にのると

いたそうで、小さい男の子は「ぴっとこ踊り」、女のは「おかめ総踊り」、男女混ざつての「左官踊り」、餅つき踊り、えびす鯛つりり、興にのると

お囃子の音色と伝統の踊りが引き継がれる、「子どもからお年寄りまで安心して楽しめるお祭り」が仲町自慢の祭であります。

お囃子の音色と伝統の踊りが引き継がれる、「子どもからお年寄りまで安心して楽しめるお祭り」が仲町自慢の祭であります。

山車には「キリン」が無く、町内の息の合った「かじ裁き」が行われ、曳き回しの時のお囃子は基本的にぴっとこ、屋台、四丁目ですが、仲町独自の「新式ぴとこ」「新式四丁目」という珍しいお囃子があります。

大人も踊る「餅つき踊り」、とりを飾る「白狐の舞」など、他地区には見られないたくさんの演目が並びます。

真夏の暑さを忘れさせる仲町区の熱演が祭に色を添え、たくさんの観客の目を多くに楽しませてくれます。



町内あげての踊りの練習



なごやかな曳き回しが行われる仲町山車

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。
内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。